

委員会視察記録

委員会名	文化観光委員会			
期 間	令和4年10月18日～20日			
参加者	委員長	坪内 秀樹	委員	土屋 源由
	副委員長	勝俣 昇	委員	沢田 智文
	委員	植田 徹	委員	山本 隆久
	委員	宮城也寸志		
	委員	早川 育子		
視察先	1 兵庫県立芸術文化センター（兵庫県西宮市） 2 なら歴史芸術文化村（奈良県天理市） 3 堺市博物館・百舌鳥古墳群ビジターセンター（大阪府堺市） 4 大阪府立障がい者交流促進センター「ファインプラザ大阪」（大阪府堺市）			

視察の概要

10月18日（火）

■ 兵庫県立芸術文化センター

<概要>

昭和63年に開催された第3回国民文化祭の後、平成元年から本格的な舞台芸術ができる劇場建設の構想が始まり、阪神淡路大震災前に整備費400億円で基本設計を行った。震災があった後も劇場建設に対し議会の反対はなく、県民アンケートでも賛成多数で、平成17年10月に整備費200億円をかけて開館した。



年間の経営規模は33億円であり、公共施設として約半分は県からの指定管理料等で賄われている。経済波及効果があるだけでなく、利用しない人からも、自分には行かないが施設があるのは財産で、子や孫のために残したいと評価される施設である。

<主な質疑応答>

Q アカデミーオーケストラにした理由は。

A 佐渡芸術監督自身がいろいろな人に育ててもらったため、若い人を応援したい、若手育成のオーケストラをやりたいという希望があり今の形になっている。当初はプロのオーケストラの構想でスタートしたが、関西には大阪フィルなど4つのフィルハーモニーがありプロのオーケストラが多いことから、兵庫ならではのオーケストラ、次の担い手を育てる形になった。

Q スタッフの人数及びコロナで活動停止になった時の取組は。

A スタッフは63人だが、建物設備、警備、チケットもぎり、音響、照明等は業者委託で、3つのホールが全て稼働すると200名ほどになる。

臨時休館になった際に、舞台担当がリモートで何かできないかと考え、

それぞれの宿舎で指揮に合わせて演奏する「すみれの花咲く頃プロジェクト」を県民も参加して実施した。舞台でのスモーク実験やコンサート実験を行い科学的に検証し、9月から再開した。

Q 舞台に木材を使用している理由は。

A 反響がないように軟らかい兵庫県産の杉を利用。舞台は桧や松。反響が必要なホールはマホガニーなど水に沈むような堅い木材を使用する。

10月19日(水)

■ なら歴史芸術文化村

<概要>

文化財修復・展示棟（官民の工房の見学、ワークショップ）、芸術文化体験棟（制作活動の公開、幼児向けプログラムの実施、多目的ホール等の貸館）、交流にぎわい棟（直売所、サイクルステーション、レストラン等）、情報発信棟（道路・観光情報や奈良県内の歴史文化資源・芸術などの情報発信）の4棟とホテル、道の駅が一体となった官民連携で運営する多機能複合施設である。整備事業費約100億円のうち国庫は地方創生拠点整備交付金等で2割。



<主な質疑応答>

Q 郊外に立地しているが、都市計画はどうなっていたか。

A 高校の跡地などの候補地があった中で、有識者の意見も取り入れて芸術文化に親しめる静かな場所を選定した。市街化調整区域であり一部風致区域だったが、天理市長が積極的に地区計画を定めゾーニングした。外観、色彩、勾配屋根等法規制に合わせている。ホテルについても地区計画に入れており、底地は県のもので定期借地権により建設している。

Q 他にもホテルなどがあり一体として計画するのは難しいと思われるが、ホテルも建設できた理由は。

A 最初からホテルの計画があったわけではないが、賑わい、滞在、観光までは目的に含められるとした。奈良県は客室数が全国最下位で日帰り観光が多く、宿泊施設の確保が課題だったため、ホテル誘致を基幹プロジェクトとして進めていた。郊外は特に宿泊施設が少ないため、奈良駅周辺以外にも広げれば奈良県内に長く滞在してもらえ効果がある。

Q 歴史、芸術、文化と幅広いが、アピールポイントは。

A 芸術家が郊外に滞在して制作活動をする、歴史・文化財を観賞するだけでなくどうして今ここに存在するか、人が関わって培われていることを見てもらう体験型展示である。県民の芸術文化活動に資するのが目的で、ホテル、道の駅を含む多機能複合型とすることで集客の相乗効果を狙っている。

Q 複合施設、道の駅にホテルを建てたメリットは。

A 積水ハウスのプロジェクトで道の駅のそばにホテルを建設した。ホテル内に飲食施設のない宿泊特化型ホテルで、長期滞在をして地方の良さを知ってもらうのがコンセプト。道の駅が目的地になり宿泊施設があることを分かってもらえるため広告が不要である。自宅に親戚や友人が来た時の利

用も想定している。

■ 堺市博物館・百舌鳥古墳群ビジターセンター

<概要>

・堺市博物館

昭和 55 年に市民からの寄付を受けて建設したため、堺市立ではなく堺市博物館としている。歴史博物館として旧石器から近現代の通史を展示している。百舌鳥にスポットを当てるとともに、戦国時代の日明貿易、ヨーロッパとの交易、鉄砲生産により繁栄して文化の花が開き、外国との交易がなくなった江戸時代からは手工業のまちとして栄えた堺市の歴史を紹介している。



・百舌鳥古墳群ビジターセンター

文化庁の補助金を利用して整備。映像とパネル展示により古墳群の魅力を伝える入門施設であり、実物は博物館で見てもらうことですみ分けている。

古墳群は 3 市にまたがっており、1 府 3 市で構成する保存活用会議で英語、中国語、韓国語のパンフレットを作成している。小さい古墳も巡ってもらうため「もずふるカード」や観光向けガイドを作成し、レンタサイクルでの周遊を促している。ふるさと納税を活用した協力を呼びかけている。

<主な質疑応答>

Q ビジターセンターは新設した施設か。

A 市長選後、新設ではなく既存施設利用に方針が変更され、閉店したレストランを利用している。

Q 周辺の整備、開発に問題はあるか。

A 世界遺産登録前から風致地区だった。8ヘクタールの計画のうち、まだ4ヘクタールしかオープンしていないため用地買収中である。31メートルの高さ規制があり、墳丘の後ろに高いビルが建たないようにしている。マンションの建て替えに対する制限、建物の色、屋外広告物の面積規制等があるが、世界遺産登録にほとんど反対は無かった。

10月20日(木)

■ 大阪府立障がい者交流促進センター 「ファインプラザ大阪」

<概要>

昭和 56 年の国際障害者年を契機に障害者の自立と社会参加の促進、交流を図るふれあいの場として設置された。気軽にスポーツを体験できる講習会、競技技術を習得できる教室の開催や専門家によるスポーツ相談会の実施のほか、施設や学校に出向き障害者スポーツの普及も行っている。



大阪府内には、ファインプラザ大阪のほかにも府立の稲スポーツセンター（H8開設）や大阪市の2施設、堺市の1施設の計5施設がある。

<主な質疑応答>

- Q 専門の資格を持った人材が必要だが、人材確保の現状と取組は。
- A 障害者指導員資格保持を条件として採用している（体育大学出身、障害者に対する理解があるなど）。大学で取れる資格であり取得している人もいるが、一般のスポーツ指導員に比べて人数が少ないためファインプラザ大阪で養成講習をしている。またパラスポーツ協会と協力して中級指導員の資格取得講習を実施している。
- Q 障害者と健常者の利用などに対する意見は。
- A 障害者と健常者が一緒にできるのがいい、健常者がいると意識してしまうなど意見は様々であるが、交流しないと分からないことが多く、専用施設ではお互いのことが分からない。障害者と健常者の別なく使える施設が良いと考えている。
- Q 障害のない高齢者の利用割合は。
- A 平日は高齢者が多い。土日は競技の練習があり若年者が多い。
- Q 36年前からインクルーシブをうたっているそのきっかけは。
- A きっかけは不明であるが、昔から人権教育を大切にしており、府の教育委員会の根底にもある。
- Q 特別支援学校等卒業後に体を動かす機会が減ると言われているが、ここに来るきっかけづくりはどのようにしているか。
- A 利用者の年齢が上がっており、若い人材が必要。特別支援学校の部活動に指導者として出向き、ファインプラザに誘う、学校でまとまって施設利用をしてもらい、全国大会の要綱の学校での配付を依頼することなどにより若年者の利用が増えている。ただし、全国大会があっても限られた人しか参加しないということはある。
- Q 障害者施設は静岡県では健康福祉の分野で担当しているが、大阪府のスポーツ文化の他地域との違いは。
- A 障害者スポーツに関してはスポーツ部局で担当している。卓球、サッカーなど企業スポーツが盛んであり、令和3年度にスポーツコンベンションが立ち上がって障害者スポーツも参加している。観光とスポーツの取組もある。
- 障害者の文化芸術も福祉部で担当しており、ビッグアイで舞台芸術に取り組んでいる。居場所として、またワークショップでの作品づくり、劇やダンスは表現の場、創造の場となっている。障害者アートを現代美術として販売する取組を委託して裾野の拡大と芸術としての高みを目指している。
- Q 障害者の利用がメインの建物だと思うが、新しく造るとしたら障害者と健常者の双方にとって良い施設とするために手を入れたい所は。
- A オリンピック種目であるボーリング場がある施設が多い中、ここにはないためあったら良いと言われることもあるが、36年経っていても施設は充実しており、不便はそれ程感じていない。しかし、駅から車椅子で来るのは大変であるため、アクセスの良い便利な所に造るか、輸送を充実させるべきである。市民体育館など一般の人が使う施設を充実させる方向に全体が動くのが良いと思う。学校の体育館は土日は空いていることが考えられるため、そこを使えたら良いと思う。